

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人まむろ川福祉会		
事業所名	地域密着型特別養護老人ホーム「悠悠」【事業所番号：0692500069】		
介護サービスの種類	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	定員数	20名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 株式会社ティービーアイ クリアトークカム [導入時期] 令和3年12月28日 [導入台数] 6台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	開設当初はナースコール設備に連動したPHSシステムを導入して運用してきましたが、それに加え見守り用のセンサーマットも導入し、迅速な対応が出来るように強化していたが、PHSでは会話は入所者との間のみで他職員間には内線電話的にPHSを操作しなければならないため手がふさがれ、聞き取りも良好ではない。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<input type="radio"/> 導入後（翌年）1年目 センサーマット作動時の対応時間短縮や職員間情報共有の迅速化 転倒・転落事故やヒヤリハットの減少 <input type="radio"/> 2年目 1年目同様 <input type="radio"/> 3年目 1年目同様		
期待される効果等	<input type="radio"/> 導入後（翌年）1年目 入所者のみならず職員間の情報共有が容易になり施設内の移動負担の軽減や見守りが最小限で迅速に行える。 迅速に対応可能となることに加え両手が使えるため転倒・転落事故やヒヤリハットの減少が期待できる。 <input type="radio"/> 2年目 1年目同様 <input type="radio"/> 3年目 1年目同様		
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	介護事故・ヒヤリハット数の減少		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人まむろ川福祉会		
事業所名	短期入所生活介護事業所「悠悠」 <sup>ゆうゆう</sup> 【事業所番号：0672500451】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	4名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 株式会社ティービーアイ クリアトークカム [導入時期] 令和3年12月28日 [導入台数] 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	開設当初はナースコール設備に連動したPHSシステムを導入して運用してきましたが、それに加え見守り用のセンサーマットも導入し、迅速な対応が出来るように強化していたが、PHSでは会話は入所者との間のみで他職員間には内線電話的にPHSを操作しなければならないため手がふさがれ、聞き取りも良好ではない。		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<input type="radio"/> 導入後(翌年)1年目 センサーマット作動時の対応時間短縮や職員間情報共有の迅速化 転倒・転落事故やヒヤリハットの減少 <input type="radio"/> 2年目 1年目同様 <input type="radio"/> 3年目 1年目同様		
期待される効果等	<input type="radio"/> 導入後(翌年)1年目 入所者のみならず職員間の情報共有が容易になり施設内の移動負担の軽減や見守りが最小限で迅速に行える。 迅速に対応可能となることに加え両手が使えるため転倒・転落事故やヒヤリハットの減少が期待できる。 <input type="radio"/> 2年目 1年目同様 <input type="radio"/> 3年目 1年目同様		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	介護事故・ヒヤリハット数の減少		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人まむろ川福祉会		
事業所名	特別養護老人ホーム「悠悠」 <sup>ゆうゆう</sup> 【事業所番号：0672500444】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	56名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 株式会社ティーピーアイ クリアトークカム [導入時期] 令和3年12月28日 [導入台数] 13台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有）	開設当初はナースコール設備に連動したPHSシステムを導入して運用してきましたが、それに加え見守り用のセンサーマットも導入し、迅速な対応が出来るように強化していたが、PHSでは会話は入所者との間のみで他職員間は内線電話的にPHSを操作しなければならないため手がふさがれ、聞き取りも良好ではない。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<input type="radio"/> 導入後（翌年）1年目 センサーマット作動時の対応時間短縮や職員間情報共有の迅速化 転倒・転落事故やヒヤリハットの減少 <input type="radio"/> 2年目 1年目同様 <input type="radio"/> 3年目 1年目同様		
期待される効果等	<input type="radio"/> 導入後（翌年）1年目 入所者のみならず職員間の情報共有が容易になり施設内の移動負担の軽減や見守りが最小限で迅速に行える。 迅速に対応可能となることに加え両手が使えるため転倒・転落事故やヒヤリハットの減少が期待できる。 <input type="radio"/> 2年目 1年目同様 <input type="radio"/> 3年目 1年目同様		
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	介護事故・ヒヤリハット数の減少		

## 2 補助事業計画書

事業者名	理事長 矢島 恭一		
事業所名	老人保健施設 うらら 【事業所番号：0650880024】		
介護サービスの種類	介護老人保健施設入所	定員数	100
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] パラマウントベッド エスパシアシリーズ KA-N1720J  [導入時期] 令和3年12月15日 [導入台数] 7台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	介護職員の職員会議の要望から、超高齢の認知症の方や障害のある入所者に離床センサーで見守り(介護ロボット技術)をすればベッドから転倒転落事故の予防と、介護職員の事故の心配からくる見守り労務負担を軽減できると考えてパラマウントベッド7台離床センサー付の導入を計画した		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 転倒転落のリスクがある方のアセスメント評価 ○2年目 リスクのある方への行動分析と対策 ○3年目 見守りの必要性を判断する		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 危険な行動の心理状態が何かを把握できる ○2年目 入所者へ適切なケア計画(リハビリや安全指導)を実施できる ○3年目 対応の優先順がわかるので、職員の心労や負担が軽減している		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	行動評価の記録とナースコール(ケアコム)センサー連動のデータを参考し危険な行動の心理状態を検証する		

## 2 補助事業計画書

事業者名	医療法人山容会		
事業所名	看護小規模多機能型居宅介護 花浜【事業所番号：0690800388】		
介護サービスの種類	看護小規模多機能型居宅介護事業所	定員数	29名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] ・カメラ型見守り支援機器 A.I.Viewlife ・見守りセンサー [導入時期] 令和 4年 1月 15日 [導入台数] 5台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	【問題点】 <input type="radio"/> 施設運営 ・職員に本来の看護・介護業務を専念させる環境整備。 ・介護事故発生に対する万全なリスク管理体制。 <input type="radio"/> 職員負担 ・ヒヤリハット・介護事故発生への不安。 ・夜勤時の少人数勤務への不安。 ・見守りのための定期的な訪室による身体的負担。 <input type="radio"/> 情報共有 ・利用者の記録は、担当した職員個人の能力に頼らざる負えない。		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<input type="radio"/> 導入後(翌年)1年目 職員全員が見守り機器を活用できる。 <input type="radio"/> 2年目 介護事故ゼロ。 <input type="radio"/> 3年目 庄内地域唯一の看護小規模多機能型居宅介護事業所としての機能・役割を果たし、地域介護へ貢献する。		
期待される効果等	<input type="radio"/> 導入後(翌年)1年目 職員の負担軽減。 <input type="radio"/> 2年目 見守り機器のデータを活用した情報共有と介護サービスの提供。 <input type="radio"/> 3年目 手厚い看護・介護の提供		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<input type="radio"/> 訪室回数の削減、介護従事者(利用者)の満足度。 <input type="radio"/> 転倒・転落事故の減少。		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人光風会		
事業所名	特別養護老人ホーム芙蓉荘 【事業所番号：0670800382】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	101
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	介護ロボット[製品名] 眠り SCAN NN-1520[導入台数] 8台 eye カメラ[導入台数] 8台 通信環境整備[製品名] Wi-Fi 工事(無線 LAN) 下記以外 HUB 収納キャビネット等雑材・ 消耗品等は見積書参照 PoE HUB16 ポート BS-GSL2016P 2台 無線 LAN アクセスポイント WAPS-1266 19台 モバイル端末(スマートフォン) Fujitsu arrowsBZ01 か 2 3台 [導入時期] 令和4年1月31日		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	現在の問題点 ・現在もセンサー等は使用しているが当該エリアの居室周辺は動線が長くセンサー対応職員はセンサーが作動するたびに訪室するため寝返り等でのセンサー作動も多く職員の身体的負担が大きい。またたびたび訪室される利用者の安眠も阻害される。 ・感染症対策シミュレーション策定時、個室隔離した場合の状態観察に課題がある。(接触回数の軽減) ・昼夜逆転の状態にある利用者の生活改善が課題であることが施設サービス計画書作成時のカンファレンスでも話題になり該当利用者の睡眠状態調査の必要性が高くなっている。 ・看取り介護において心拍等がモニター等でわかり、更に付き添う家族には病院とは違う生活の延長線上での看取り介護である理解に即したシステムを探しているところであった。 導入台数の妥当性 当施設は 101 名の利用者を 3 つのグループに分けてサービス提供していて昨年度 1 つのグループでコロナ対策のため眠りスキャンを試験的に導入している。感染対策、看取り介護、睡眠状態観察、離床動作確認を使用機会として眠りスキャンと eye カメラを使用する場合、各グループ 4 台ずつが妥当と考えている。未導入の 2 グループに 4 台ずつの計 8 台、Wi-Fi 工事未設置の 2 グループに配線等工事を予定したい。また、現在はグループの PC 端末での観察のみであるが、職員が移動中も状態確認をしたいとの希望があり、モバイル端末の導入も予定したいと考えている。 職員との導入意義の共有 そもそも眠りスキャンと eye カメラに関しては介護職員の業務改善係より提案されたものであり、同様の仕様の機種の中からデモ等		

	<p>活用し当製品を介護職員が選定していること、現在試験的に導入している過程でモバイル端末の導入の提案があったこと含めて、現場が求めていることは明解である。なお、その導入効果の評価についても業務改善係で継続的に検討していく事としたい。</p>
<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目  睡眠データを活用した施設サービス計画書の作成  導入による業務改善係による業務改善目標の設定  感染者が出た場合の機器使用を感染対策シミュレーションへの反映  看取り介護時等における家族への説明</p> <p>○2年目  睡眠データを活用した施設サービス計画に基づいたサービス提供と評価  使用利用者選定の拡大検討、購入  感染者が出た場合の感染対策シミュレーションの実施  看取り介護時の使用と評価</p> <p>○3年目  睡眠データを活用した施設サービス計画に基づいた PDCA サイクルでの支援方法の確立の振り返り  使用利用者選定の拡大検討、購入  導入による業務改善係による業務改善目標の評価→訪室回数の減少  感染者が出た場合の感染対策シミュレーションの振り返り  看取り介護後のアンケート、振り返りの集約</p>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目  データに注目した科学的根拠のある施設サービス計画書を作成する事が出来る  業務改善係活動により具体的改善内容の共有が出来る  感染者が出た場合接触回数が減る  看取り時職員・家族の不安軽減</p> <p>○2年目  データに注目した科学的根拠のある施設サービス計画書に基づきサービスが提供される。  無駄足の訪室回数の減少。職員の負担軽減。  感染者が出た場合接触回数が減る  看取り時の職員・家族不安軽減</p> <p>○3年目  PDCA サイクルにより利用者生活の質向上と職員の介護力向上  使用対象利用者拡大により見守りに対する職員の負担が大きく軽減され、見守りがシステム化される。  感染者が出た場合接触回数が減る  看取り時の職員・家族不安軽減</p>

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	施設サービス計画書の変化による実証 業務改善係による訪室回数等調査、職員アンケート 感染症対策による訪室回数の記録 看取り時家族アンケート及び職員振り返りでの聞き取り
------------------------------------	--



## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人いずみノ杜		
事業所名	特別養護老人ホームつばさノ杜【事業所番号:691900104】		
介護サービスの種類	地域密着型介護老人福祉施設	定員数	29
(介護ロボットの製品名) 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ベッドセンサーシステム ベーシック [導入時期] 令和3年12月24日 [導入台数] 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	現在、疾患から毎日の体重測定が必要なご入居者が2名いる。車椅子用の体重計で測定を行っているが、ベッドセンサーシステムベーシックを利用することで、職員の業務負担を軽減しながら医師と情報の共有を行っていく。また、ご入居者の状態に応じてアラーム設定を変更することができるため、訪室の優先順位をつけることができる。今年度は1台導入とし、職員が製品に慣れることで今後の必要性に合わせた増台を検討していく。		
機器を導入することにより 達成する目標 (機器導入 の翌年から3年間、年度 毎)	○導入後 (翌年) 1年目 職員が製品に慣れることを目標とする。 導入後、慣れるまでは1ヶ月に1度アラーム設定の見直しなど、センサーの使用方法の見直しを実施する。 ○2年目 転倒転落事故の軽減及び体重値を嘱託医と共有し、ケアの向上を目標とする。 3ヵ月に1度、使用状況の確認を実施する。 ○3年目 センサーを使うことで軽減された業務の時間を、入居者とのコミュニケーションを含む直接介護の時間の確保を目標とする。また、好事例などを共有するため、引き続き3ヵ月に1度、センサーの使用状況の確認を職員間で実施する。		

<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目 転倒事故の削減、体重測定業務の負担軽減効果</p> <p>○2年目 体重履歴やアラーム履歴を定期的に確認し、ご入居者の状態観察を実施し、ケアを向上させる。</p> <p>○3年目 業務効率を上げ、ご入居者とのコミュニケーション量を向上させ顧客満足へとつなげていく。</p>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど 他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等 業務日誌よりアクシデント件数、入院件数の推移を評価指標として効果検証をしていく。</p>

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人友和会		
事業所名	特別養護老人ホームサン・シティ 【事業所番号：0670800390】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	60名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ・エスパシアシリーズベッド  [導入時期] 令和4年3月15日 [導入台数] 20台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>当施設ではかねてよりセンサーベッドを導入しており、その使用効果は転倒予防や職員の精神的負担の軽減、能率的な業務の遂行につながっている。見守り支援機能システムのある介護ロボット（ベッド）の活用は、近年転倒リスクの高い入所者が増え、センサーベッドの使用ニーズが高まっている状況において必要となっており、一定程度の台数の導入については、職員の心身の負担軽減が図られるものと期待できる。</p> <p>現在職員は、限られた数のセンサーベッドを効率的かつ有効に使用しなければならず運用方法を工夫している。安全確保のために不足部分を一般的な簡易型感知器で補っているものの、それは不確実な入所者の動きへの対処、非日常的な複数の音に振り回されるなど、職員、入所者双方にとってストレスの要因となってしまう。</p> <p>介護ロボットとされるエスパシアシリーズベッド（センサーベッド）の導入は、複数の機器取り扱いや管理などの煩雑さが解消される他、機器の高機能化からよりの確に入所者の動きを察知しセンサーが稼働するため、転倒転落リスクの早期発見・早期対応につながるなど、入所者の安全確保はもちろん、職員の精神的負担の軽減、業務の効率化につながるものと考えられる。そしてそれは、日中に限らず人員体制の少ない夜勤帯においても、効果が期待される場所である。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	導入後（翌年）1年目 ・簡易型感知器の使用率が減る。 ・センサーベッドの機能をしっかり理解し、入所者の状況に合わせ使用することができる。  <input type="radio"/> 2年目 ・不要に職員が居室へ行き来する回数が減らせる。  <input type="radio"/> 3年目 ・入所者の動きを適時知ること転倒、転落が予防できる。		

<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の簡易型感知器の管理が不要になり、必要な方にセンサーベッドを使うことができるようになることから、移動、入れ替えを行う職員の手間、セッティング等の負担が軽減される。また簡易型感知器の音等に対するストレスの軽減が期待される。（業務の効率化、ストレスの軽減）</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な動きに連動してしまう感知器の音が鳴るたびに確認に行く必要がなくなる。（身体的、心理的負担の軽減）</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の動きに合わせた設定が行えることで、適宜早期に対応することができるようになり、転倒、転落のリスクが減る。（安全の確保身体的、心理的負担の軽減）</li> </ul>
<p>効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）</p>	<p>直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等、ヒヤリハット・事故報告書の提出件数と内容の確認</p>

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社ケアセンターはなみずき		
事業所名	グループホームはなみずき【事業所番号： 670101476 】		
介護サービスの種類	認知症対応型共同生活介護	定員数	18
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名] パラマウントベット製 眠り scan・眠り scaneye バッファロー製 無線 LAN 親 11ac/n [導入時期] 令和4年2月28日 [導入台数]9</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>利用者の睡眠状態の把握することで、支援の効率化。 見守りが必要な方が多く、コールが連発し、「大丈夫だという」職員の慣れが出てきてしまい、現状を確認せず、見過ごしてしまうことがあった。夜間の睡眠状態は目で見える状態しかわからないため、不眠＝眠剤と安易な考えになってしまっている。また、導入にあたり既存のセンサーは職員の精神的負担軽減のため、撤去しても問題ない方のみ撤去を行う。 宿泊の居室10室に導入を考えている。 職員にはアンケートを実施し、職員の気持ちや期待度などを確認したうえで、役員会議にて決定する。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目 睡眠状態の確認ができる。体調の変化に早い段階で気づくことができる。 看取りへの活用。 家族に対し夜間帯の情報をより正確にお伝えすることができる。</p> <p>○2年目 在宅復帰の足掛かりに。（多職種との連携） 居室内での怪我がなくなる。 夜勤職員の労働の軽減により業務に余裕をもてる。 ケアプラン作成時にデータを参考にすることができる。</p> <p>○3年目 宿泊者すべてが眠剤、不使用に。 夜勤職員の精神的安心ができる。 機器を導入してない部屋に関しても導入を検討する。</p>		
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目 利用者の睡眠状態を把握できたことにより、不要な訪室が減り、利用者の睡眠時間の確保ができる。 家族に対し科学的データに基づいた情報提供ができる。また、依頼があった際はデータを家族に対し開示することが出来る。</p> <p>○2年目 多職種連携においての情報提供の質が向上する。 転倒事故の低減が期待できる。 睡眠状態の把握により、職員の精神的・肉体的負担の軽減ができる。</p>		

	<p>ケアプラン作成にデータを利用したことにより、さらに質の高いプランを提供できる。</p> <p>○3年目</p> <p>眠剤を不使用にすることにより、宿泊者の体への負担が軽減する。</p> <p>全室機器導入によりより夜勤職員の精神的負担が軽減する。</p>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等</p>

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社ケアセンターはなみずき		
事業所名	はなみずきの家 【事業所番号：690100045】		
介護サービスの種類	小規模多機能型居宅介護	定員数	29
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名] パラマウントベット製 眠りSCAN・眠りscaneye バッファロー製 無線LAN親11ac/n [導入時期] 令和4年2月28日 [導入台数]5台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<p><input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)</p>		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>利用者の睡眠状態の把握することで、支援の効率化。 見守りが必要な方が多く、コールが連発し、「大丈夫だという」職員の慣れが出てきてしまい、現状を確認せず、見過ごしてしまうことがあった。夜間の睡眠状態は目で見える状態しかわからないため、不眠＝眠剤と安易な考えになってしまっている。また、導入にあたり既存のセンサーは職員の精神的負担軽減のため、撤去しても問題ない方のみ撤去を行う。 宿泊の居室5室に導入を考えている。 職員にはアンケートを実施し、職員の気持ちや期待度などを確認したうえで、役員会議にて決定する。</p>		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後 (翌年) 1年目 睡眠状態の確認ができる。体調の変化に早い段階で気づくことができる。 看取りへの活用。 家族に対し夜間帯の情報をより正確にお伝えすることができる。</p> <p>○2年目 在宅復帰の足掛かりに。(多職種との連携) 居室内での怪我がなくなる。 夜勤職員の労働の軽減により業務に余裕をもてる。 ケアプラン作成時にデータを参考にすることができる。</p> <p>○3年目 宿泊者すべてが眠剤、不使用に。 夜勤職員の精神的安心ができる。 機器を導入してない部屋に関しても導入を検討する。</p>		
期待される効果等	<p>○導入後 (翌年) 1年目 利用者の睡眠状態を把握できたことにより、不要な訪室が減り、利用者の睡眠時間の確保ができる。 家族に対し科学的データに基づいた情報提供ができる。また、依頼があった際はデータを家族に対し開示することが出来る。</p> <p>○2年目 多職種連携においての情報提供の質が向上する。 転倒事故の低減が期待できる。 睡眠状態の把握により、職員の精神的・肉体的負担の軽減ができる。</p>		

	<p>ケアプラン作成にデータを利用したことにより、さらに質の高いプランを提供できる。</p> <p>○3年目</p> <p>眠剤を不使用にすることにより、宿泊者の体への負担が軽減する。</p> <p>全室機器導入によりより夜勤職員の精神的負担が軽減する。</p>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等</p>



事業者名	株式会社 互惠		
事業所名	グループホーム コミュニティママ家 【事業所番号： 0673000675】		
介護サービスの種類	認知症対応型共同生活介護 認知症対応型通所介護共用型	定員数	18名 3名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 介護ロボット製品名；眠りスキャン(パラマウントベッド株式会社) 通信環境整備製品名；アクセスポイント・PoE 給電ハブ (アライド ティニス株式会社) [導入時期] 令和4年1月14日 [導入台数；9台]		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○ 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>現在の問題点；夜勤帯の放尿・無断離設・転倒骨折事故等では睡眠状況の把握が不可欠だが観察だけでの対応では極めて困難。          導入台数の妥当性；ユニット(9人)毎に夜勤者がいる。モニターでリアルタイムに状況把握をし、データ分析によって導き出された科学的根拠に基づく適切なサービスの提供により、安眠妨害の回避や職員の経験則に頼る介護の不安が軽減できるほか、夜勤者の適切な仮眠時間もとれるなど働き方の改善も可能となる。しかし、データを十分生かせるように取り組みが必要であり当面1ユニットのみの9台とした。          職員との導入意義の共有；夜勤帯は介護スタッフが手薄になるが色々な問題行動(放尿・徘徊)が起きやすく対応困難になる場合が多い。これらの適切な対応には睡眠深さが関係することは、実際に取り組んだ職員によって明らかになっている。          これを、介護ロボット導入により、睡眠と介護サービスの関係性に係るデータを蓄積し、スタッフ間で研究・分析し、科学的根拠に基づく適切な介護サービスの提供につなげることで、職員の自信や遣り甲斐・安心感を得られるようになることが導入の意義であり、          当初1年間は、今までの成功体験者(放尿に取り組んだ夜勤者)やケアマネ・管理者・介護主任を中心に、データ分析やデータに基づくマニュアル作りをすることでスタッフ全員が根拠に基づく科学的な介護サービス提供が重要なことを共有できると考える。</p>		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後 (翌年) 1年目          夜勤帯を中心にリアルタイムでのデータの分析結果をもとに提供サービスの適正化を図る。その際に従前の経験則によるものと、データでのサービスとの間にどのような関係性が成り立つかを分析し検討。          ○2年目          前年度の取組を踏えて、看護師や日勤者も参加して睡眠状況のデータが健康や生活活動・精神活動や表情などにどんな関係性が有るかを観察して分析し、総合的な生活支援の在り方を検討し、個別目標の設定に反映させる。          ○3年目          家族・介護スタッフの情報共有化、提供サービスの改善、科学的根拠に基づく適時適切な介護サービス提供を誰でもできるように、マニュアルを作成する。</p>		

<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目          具体的根拠に基づくサービス定期用が可能となり、放尿問題回避、不眠時の安全への適切な対応が計画的に行えることで、夜勤者の不安を軽減し計画的に仮眠を取れるなどの労働環境の改善が見込める。</p> <p>○2年目          就眠時の状態の可視化されたデータとタイムリーな介護サービスの提供が行えることで、私見や経験則だけに頼ることなくスタッフ全体が科学的根拠に基づき課題分析・理解・情報共有化が図れることで、自信をもってサービス提供ができることから個々の職員の成長が見込める。</p> <p>3年目          データ分析に基づき介護スタッフの作成した介護サービス提供マニュアルを作成することで、誰にでも適切な介護が出来るようになり、また、マニュアルを超える質の高いサービス提供も可能となるなどでのほか、家族との情報共有を促し充実した介護ができ職員が誇りをもって業務遂行ができ離職率の低下が見込める。</p>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>記録方法は既にPCによる独自の随時記録システムを開業当初から使用している。これを使えば、導入機器に基づく介護サービスの提供の状態を何時でも誰でも抽出できるため、データとサービス提供の関係性を検討する資料が容易になっている。</p> <p>効果に関する指標作りはスタッフも入れて行っているが、事業導入スケジュールに記した通り成功例や失敗例とデータを比較して行う。例としては、問題行動の減少、転倒事故の回避、就眠状態の改善、利用者の生活行動の改善、家族との連携促進等々が上げられるほか、職員の理解度や不安の解消や仮眠時間の取得の実績なども指標となる</p>

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 輝きの会		
事業所名	①特別養護養護老人ホームいきいきの郷 【事業所番号：0670100767】 ②総合福祉施設いきいきの郷 短期入所生活介護事業所 【事業所番号：0670100141】		
介護サービスの種類	①介護老人福祉施設 ②短期入所生活介護	定員数	①100名 ②20名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ナースコール連動型見守り機器 [導入時期] 令和4年3月1日 [導入台数 13台] 通信環境整備 スマートフォン設備一式 ナースコール導入設備工事 Wi-Fi 工事 [導入時期] 令和4年3月1日 [導入台数 13台]		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>現在、利用者の居室内での転倒、ベッドからの転落の予防策として、ナースコール連動型のセンサーマット及び離床キャッチ付電動ベッドを使用している。</p> <p>しかし、コール音声のみのため、必ず訪室で確認しなくてはならない。</p> <p>また、PHS 呼出へのタイムラグがあるため確認までの時間がかかっている。居室数や廊下の長さもあるため職員の行動範囲が広く体力的に負担が大きい状態がある。</p> <p>見守りカメラ導入により重大な転倒や転落事故とならないように、優先順位をつけて訪室することにより、職員の体力的負担を軽減したい。</p> <p>特に夜間不眠の状態である利用者や、入所直後や退院間もない利用者の状況把握に使用するなど、見守りを強化したい。</p> <p>事故前後の状況を分析し、原因を解明することで、ご家族様への説明責任もはたすことができる。</p> <p>職員への実態調査や事故報告作成等の精神的負担も軽減され安心して勤務することが出来ることで離職率を軽減し、人材確保にも繋げていきたい。</p>		

<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の使用について職員への研修を行い、スムーズな導入を目指す。</li> <li>・見守りカメラの設置について本人、ご家族に説明し理解を求める。</li> <li>・職員に対してアンケートを行い導入後の効果を検証し業務改善を行う。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故対策への効果の検証結果に基づき、業務マニュアルの見直しを行う。</li> <li>・軽減された分で個別ケアの充実を図る。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りカメラの使用による、事故件数の減少を図る。</li> <li>・介護業務の負担軽減による職員の離職率が低下をめざす。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務負担の軽減</li> <li>・職員の精神面の安定</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重大事故の減少</li> <li>・施設サービスの向上</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離職率の低下</li> <li>・人材確保</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員からの業務効率化についてのアンケートで情報収集する。</li> <li>・定期的なリスクマネジメント委員会での事故件数の確認</li> <li>・夜間巡視の訪室回数や利用者の不眠状況等の検証</li> </ul>

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 たいよう福祉会		
事業所名	特別養護老人ホーム ソーレ東根 【事業所番号：0671700433】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	100名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 PARAMOUNT BED 眠りスキャン Wi-Fi 設備一式  【導入時期】 令和4年2月1日 【導入台数】 20台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	看取り期や体調不良者、転倒等、夜間帯職員が少ない時間に見守りが必要な入居者が増えている。夜間、一人で複数の居室を同時に見守ることができるので、職員の負担軽減と見守りの効率化が図れる。また、看取り期の入居者や体調不良者に対しては、バイタルの異常をアラームで知ること、異常に早く気づくことができる。夜間業務を不安に感じる職員の精神的負担の軽減を図る。離れた場所から、見守ることで入居者の安眠を妨げない。		
機器を導入することにより 達成する目標 (機器導入 の翌年から3年間、年度 毎)	○導入後 (翌年) 1年目 入居者の睡眠、覚醒、離床の状況を訪室せずに複数同時に管理し、夜間の訪室の回数を減らす。 ○2年目 入居者の睡眠サイクルを検証し、ケア業務の改善を行う。 ○3年目 夜間の業務改善と、新入職員の夜間業務従事開始時期を短縮する。		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 職員の身体的、精神的負担の軽減。 急変時の早期発見と転倒リスクの軽減。 訪室すべき優先順位がわかる。 ○2年目 業務の効率化と入居者の睡眠の向上。 ○3年目 日々の睡眠リズムを把握し、入居者の状況に応じたケアを実施。 夜勤従事職員の負担軽減。		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	職員に「眠りスキャン」を使用についてのアンケートを実施。業務時間調査表を作成し、「眠りスキャン」導入後の定期巡視時間を検証する。		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人南陽恵和会		
事業所名	特別養護老人ホームこぶし荘【事業所番号：0671900082】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	116人
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 ①NDソフトウェア（株） バイタルビーツ・ケアパトロール ②無線LANネットワーク機器（配線等工事費含む） 【導入時期】 令和4年1月20日 【導入台数】 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	①現在の問題点 ・夜間徘徊、夜間の声出し、夜間不眠の入居者が数名おられ、介護負担が増大 ・新規入所者の睡眠状態の把握に時間がかかるため、その間の転倒、転落のリスクが増加 ・徘徊、声出し、ナースコール呼出音により他入所者への悪影響 ・不眠薬、安定薬の服用により、食事がしっかりとれない ②導入台数の妥当性 まずは先行的に西棟にベッドセンサー1台を導入し、数名のリスク者に対し一定期間ローテーションで使用し、合わせて無線LAN（Wifi）環境を整備する。効果によっては追加導入も検討 ③職員との導入異議の共有 西棟職員から現在の問題提起があったため、介護ロボットを活用した介護負担の軽減と介護サービスの質の向上を目指し、これに向けたチーム編成、職員教育、マニュアル作成等により課題解決に取り組むことを確認		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目（令和4年度） ・夜間徘徊者、夜間声出し者、不眠者の低減 ・転倒、転落件数の低減 ・睡眠データを医師に提供し、効果的な服薬量や服薬タイミングを把握する ○2年目（令和5年度） ・介護職員の負担軽減と職場環境の改善 ・不眠持薬服薬者の食事摂取量の改善 ・1年目の目標の充実、1年目の検証に基づく介護ロボットの追加導入の検討 ○3年目（令和6年度） ・2年目目標のさらなる充実 ・2年目の検証に基づく介護ロボットの追加導入の検討		

<p>期待される効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後（翌年） 1 年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・負担軽減と職場環境の改善による介護に要する時間の短縮、離職率の低減</li> <li>・転倒、転落リスクの低減による入院者の減少</li> </ul> </li> <li>○2 年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間リスク者低減による安心安全な居住環境の確保</li> <li>・1 年目効果の充実</li> </ul> </li> <li>○3 年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 年目効果の充実</li> </ul> </li> </ul>
<p>効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①介護負担軽減に係る職員アンケートの実施</li> <li>②離職率、異動希望者、新規応募者の検証</li> <li>③専門チームの編成によるデータ記録、多職種による分析、個別プログラム作成</li> <li>④入所者への満足度アンケートの実施</li> <li>⑤ヒヤリハット、事故報告案件の検証</li> </ul>

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社カインド・ホーム		
事業所名	グループホーム沖郷【事業所番号：0691900120】		
介護サービスの種類	認知症対応型共同生活介護	定員数	18名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名]aams/アアムス 介護ナースコール接続セット、感圧センサー、管理マスターサーバー [導入時期] 令和4年3月31日 [導入台数]12セット		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	現在、利用者への介護対応としてはナースコール呼出対応・訪問声掛け等の人的サポートが主で職員の精神的身体的な負担が大きい 介護ロボット aams 導入の意義として以下職員と共有 ・複数の利用者をステーションで同時に見守りできることによるケアの質の向上、並びに利用者の生活、生体睡眠情報の共有化。 ・職員の身体的・精神的不安の軽減化 ・昼夜を問わず利用・記録できる事によるケア対応の迅速化		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<input type="radio"/> 導入後(翌年)1年目 ・aams 機器の使用方法の習得 ・利用ご家族への機器導入使用についての申し入れ <input type="radio"/> 2年目 ・所内カンファレンスによる機器活用の振り返り ・職員負担軽減度の数値アップ <input type="radio"/> 3年目 NDソフトとの連携メリットの向上 ・バイタル数値・睡眠状況に基づくケアの対応方法向上		
期待される効果等	<input type="radio"/> 導入後(翌年)1年目 ・初めての機器使用でありメーカー・サポート窓口等を利用して取り扱い操作に慣れ、機器との業務一体化を構築する <input type="radio"/> 2年目 ・看取り或いはバイタル変化の場合情報共有し家族への早期連絡 ・職員の負担軽減に伴い施設全体のケアの質の向上につなげる <input type="radio"/> 3年目 ・機器自体の活用にとどまらず他 IT 機器との相乗効果 ・科学的数値に基づくケア実施、記録活用しヒヤリハット防止		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	・機器導入前と導入後の訪問回数の比較 ・機器使用利用者のバイタル数値記録履歴の検証 ・利用者の転倒・転落ヒヤリハット回数の比較 ・夜間睡眠覚醒リズムグラフの分析による生活パターンの改善 ・介護ソフト連携での記録内容の検証		



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 遊作厚生会		
事業所名	特別養護老人ホームゆうづいニギハ型【事業所番号：0673200523】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	30
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] パラマウントベッド 眠り SCAN (MM-1320) [導入時期] 令和4年2月8日 [導入台数] 2台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	入所して間もない利用者が看取り期に入り施設で看取りを希望された際、看取りプランを作成するにあたりケアの質をどのように設定しよいか迷う事がある。利用者の身体の状態や睡眠のリズムを把握することで生活の質を維持し、ご家族が安心して看取りを任せられる施設の体制と医療との連携を図りたい。		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 看取り介護の利用者の心拍数や呼吸数と本人の状態を見守り、医療との連携をスムーズに行うことを目標とする。 ○2年目 夜勤帯、日勤帯の睡眠状況を把握し、看取り介護の個別ケア (覚醒時の声かけ、入浴等) を有効的に行う。 ○3年目 上記により夜勤業務において労力、精神的負担を解消する		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 実証的に利用者の状態変化において正確な情報を医療に伝え、スムーズに連携を図ることができるようになる。 ○2年目 利用者の睡眠の状態にあわせて、個別ケアに取り組むことにより、最期までQOLを維持することが出来る。 ○3年目 夜勤業務においての労力、精神的負担を解消することが出来る。また、入所して間もない家族や遠方の家族にとっても、施設で看取りを安心して受けることが出来、信頼を得ることも出来る。		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等 ・看取り利用者への訪室の際の個別ケアの状態 (専用ノート) の確認 ・追悼カンファレンスや家族アンケートの内容を検証		

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 遊作厚生会		
事業所名	特別養護老人ホーム ゆうすい 【事業所番号: 0673200234】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	50
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] パラマウントベット 眠り SCAN (NN-1320) [導入時期] 令和4年2月8日 [導入台数] 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	購○、リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	看取り介護の利用者の状態把握に、夜勤者が多大な労力、また精神的負担を抱えております。現在1台の眠りスキャンを導入しておりますが、心拍数や呼吸数をリアルタイムで把握できるため、オンコールの看護師への連絡もどらタイミングで行えばよいか等、連携もとりながら落ちついて看取り介護にあたることのできる看取り介護を利用する利用者の増加にも対応できるようになる。		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 看取り介護の利用者の心拍数や呼吸数、本人の状態を見守り、医療との連携をスムーズに行うことを目標とする ○2年目 夜勤帯、日勤帯の睡眠状況を把握し、看取り介護の個別ケア (覚醒時の声かけ、入浴等) を有効的に行う。 ○3年目 上記により夜勤業務における労力、精神的負担を解消する。		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 楽観的な利用者の状態変化において、正確な情報を医療に伝え、スムーズに連携を図ることができるようになる。 ○2年目 利用者の睡眠の状況にあわせて、個別ケアにりと組み合わせにより、最期までQOLを維持することができるようになる。 ○3年目 夜勤業務における労力、精神的負担を解消することにより、若くは職員の離職を防ぐことができる。		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等 ・看取りの利用者への訪室の際の個別ケアの状況を確認 ・楽観的な状況における対応をケース記録で検証		

## 2 補助事業計画書

事業者名	医療法人徳洲会		
事業所名	介護老人保健施設ほのか 【事業所番号：0653080051】		
介護サービスの種類	介護老人保健施設	定員数	100名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名] 介護ロボット：パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社「ライフレンズサービス」 通信環境整備：パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社「ネットワーク環境構築工事」 [導入時期] 令和4年3月25日 [導入台数]100台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入、リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>当法人が運営する介護老人保健施設では、夜勤帯の介護職員の人員配置を1フロアあたり3名、合計6名の夜勤体制の中、2時間に1度、計5回/日の定期巡回による入所者様の安否確認等の介護業務を実施しているが、居室の様子確認において近くまで訪室することで認知症を患う利用者の覚醒を促してしまう。夜間覚醒状態の発生頻度が高い利用者が多いため、夜勤スタッフの心理的負担が大きい。また巡視作業における身体的負担も大きく、スタッフのシフト体制の構築が困難な状況となっており、以下の課題解決が急務である。</p> <p>①利用者の生活リズムの把握と、それに応じた適切かつタイムリーなケアの提供 ②夜勤帯のスタッフの負担軽減にむけた見守り体制・巡視作業の運用見直し ③離職者の減少にむけたスタッフのQOL向上</p> <p>上記の課題解決に向け、見守り支援機器を全室導入し、施設全体でのICT活用を前提とした先端的な運用モデルを全国老健施設の先駆けとして構築したい。</p> <p>見守り支援機器導入と合わせ、通信インフラの整備を行い、施設全体でのICT活用モデル構築を推進する。ナースコールのシステムも旧モデルのため更新が必要となる。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目 介護ロボットの導入により、利用者の生活リズムの把握およびリアルタイムモニタによる夜間帯の状態把握を行い、支援が必要な利用者の選定を実施して夜間業務に臨む。睡眠データを蓄積しつつ、日常業務を実施する。 操作説明会や活用ミーティングの定期開催による、スタッフの理解度向上と活用定着化への取り組みを図る</p> <p>○2年目 蓄積したデータをもとに利用者選定を見直し、追加導入も含めて検</p>		

	<p>討する。また業務負担軽減とタイムリーなケアの実施に寄付できるようアラート通知の活用方法の打ち合わせを実施する。機器活用の現場リーダーを育成、法人内の他施設と活用方法の共有ネットワークを構築する</p> <p>○3年目 前年の実績を踏まえ、施設内での活用方法の見直しを決定し、利用者、スタッフ双方にとって負担の少ない巡視運用モデルを確立する</p>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目 LIFELENS の操作端末により、利用者の状況把握を現場から適時行うことで、ナースコール呼び出し、センサーマットによる緊急対応の回数を導入前比 20%削減する。</p> <p>○2年目 前年の実績を踏まえ、対象者の選定や施設内での活用方法の見直しを行い、ナースコール呼び出し、センサーマットによる緊急対応の回数を導入前比 50%削減する。</p> <p>○3年目 利用者、スタッフ双方にとって負担の少ない巡視運用モデルを確立し職員の心的、身体的負担による離職を導入前比 50%削減する。</p>
<p>効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）</p>	<p>業務分析アプリ（A-Tracker）を活用し、直接／間接業務の負荷状況を定期モニタリング、定期巡視や緊急対応による業務負荷の見える化を図り課題状況に応じた対応を推進する。</p> <p>業務分析にあたってはシステム導入先のパナソニック社と連携し、協業で推進していく。</p>